

鶴岡市および庄内町におけるコウノトリ *Ciconia boyciana* の

13羽の群れの観察記録

日本野鳥の会山形県支部 築川堅治

コウノトリ *Ciconia boyciana* の13羽の群れを観察したので、筆者および複数の観察者の情報をもとにして、ここに報告する。

観察状況

2021年8月12日14時45分頃、鶴岡市中清水の日本海東北自動車道鶴岡西IC付近(38°42'56"N,139°45'23"E)でコウノトリ13羽がまとまって地上30~40mほどで旋回上昇中だと、支部会員のI氏から連絡を受けた。その後、その群れは旋回上昇と滑翔を繰り返しながら徐々に東へ向かったようだった。筆者はちょうど近くにいたため、鶴岡市下清水(38°42'49"N,139°46'42"E)で旋回上昇中のコウノトリ13羽を観察撮影することができた(図1)。筆者が観察中は、この群れは一度も地上に降りことはなく、旋回上昇と滑翔を繰り返しながら東へ進んだ。撮影した写真から、この時点で足輪つきの個体がいることがわかった。同日、最後を見届けた支部会員のS氏によれば、最終的には遠くなって見失ったということだった。

この群れがその後どこへ行ったのかは不明だったが、一週間後の同月19日に山形新聞に鶴岡市北部でコウノトリが10羽ほど現れている旨の記事が掲載された。少なくとも掲載日前日の18日頃から滞在してい

るようで、足輪から京都や島根、兵庫で生まれた個体の集団との内容だった。13羽のうち、足輪がついていないのは、分かっているだけで1羽はいたようだった。

筆者および複数の支部会員の観察から、この群れは常に集団で行動するわけではなく、単独、または2~3羽の群れで行動し、時折、9~13羽の大きな群れで日中は田んぼで過ごし、イナゴなどを捕食していた。

報道された鶴岡市北部は、同市播磨であることがわかり、同所での主な行動範囲は同所にあるカントリーエレベータ(38°46'20"N,139°49'03"E)を中心に、半径約1km程度のものであった。

同月23日には、庄内町杉野にある八幡神社(38°50'36"N,139°52'31"E)周辺に移動していることがわかり、主な行動範囲は、八幡神社を中心に半径約1km程度のものであった。この場所でも最多で13羽が確認されている。

9月1日には、鶴岡市長沼(38°48'47"N,139°53'53"E)や庄内町西小野方(38°49'03"N,139°53'48"E)で12羽が観察され、この日が終認と思われる。

ねぐらは、鶴岡市立京田小学校周辺で電柱を利用している個体が少なくとも1羽観察されており、庄内町余目竹畑では電柱や携帯電話基地局を利用している個体が少なくとも4羽観察されている(図2)。



図1. 旋回上昇する13羽の群れ 2021年8月12日筆者撮影



図2. 電柱でねぐらをとる 2021年8月25日支部会員S氏撮影

分布

本種は、シベリア南東部から中国東北部で繁殖し、冬季は中国南東部に渡る。(桐原2000)。また、2005年からは人工飼育個体を放鳥し、2012年には野生生まれのペアから雛が誕生している(大西2014)。

記録

本種の山形県における記録は10例以上あり、そのほとんどは庄内地方に単独で現れたものだ。特に2000年以降は足環つきの個体の記録が多く、2020年9月には、酒田

市で同時に3羽が記録されている。

また、2021年の国内でのコウノトリの記録は全国各地にあり、最多羽数は9月17日に福井県越前市で16羽のようだ。

なお、国内で野生生息数は8月31日現在で263羽ということだ。

参考・引用文献

日本ツル・コウノトリネットワーク(ツル類重要湿地ネットワーク) 2021. <https://www.facebook.com/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%83%84%E3%83%AB%E3%82%B3%E3%82%A6%E3%83%8E%E3%83%88%E3%83%AA%E3%83%8D%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%83%84%E3%83%AB%E9%A1%9E%E9%87%8D%E8%A6%81%E7%94%9F%E6%81%AF%E5%9C%B0%E3%83%8D%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF-1240403752641622/> Accessed on 26 September 2021.

桐原政志・山形則男、吉野俊幸 2009.日本の鳥 550 水辺の鳥 増補改訂版.文一総合出版、東京

日本鳥学会 2012.日本鳥類目録改訂第7版.日本鳥学会、三田.

日本野鳥の会山形県支部 1978~2021.ヤマセミ創刊号~97号.

真木広造・大西敏一・五百澤日丸 2014.決定版 日本の野鳥 650.平凡社、東京

(2021年9月26日記)